学校関係者評価結果報告

学校関係者評価

―学校関係者評価委員会―

さいたま市立高等看護学院、学校関係者評価委員会は「令和５年度学校運営評価」の評価結果に基づいて学校関係者評価を令和６年２月 14 日に実施いたしました。

１　学校関係者評価委員

	氏名	所属
1	油井　房子	保護者
2	川上　千津子	卒業生
3	岡嶌　浩志	外部講師
4	小山内　富士子	実習先：大宮共立病院　看護部長
5	落合　葉子	実習先：保健福祉局市立病院　看護部　副看護部長
6	高橋　勝明	実習先：保健福祉局市立病院　病院経営部　病院総務課長

２　学校関係者評価

カテゴリー	評価結果	学校関係者評価委員の意見
Ⅰ　教育理念・目標	3.6	評価点は昨年度と同じ 3.6 であり妥当である。今年度行った国境なき医師団による特別講義では、世界で活躍する看護師による講義であり、看護師が主体的に様々な職種の人と協働することや、病院だけではない看護師の活躍の場や看護師の力について、学生が考えるきっかけとなっている。 教育理念や目標は、年度始めのＨＲで学生へ周知しており、今後も継続していってほしい。
Ⅱ　学校運営	3.5	昨年より 0.1 ポイントあがり 3.5 であり妥当である。学校運営の中の３つのカテゴリーがさらにいくつかの項目に分かれており、その平均が 3.5 となっているため、特にどの項目の内容が抜きんでてポイントがあがったかは不明である。
Ⅲ　教育課程・教育活動	3.6	昨年より 0.1 ポイントあがっている。業者のテストを継続していくことと、再試験者を増やさないということで、勉強方法の指導をしたり、担任やアドバイザーが一緒に勉強をしたりと先生方の工夫や努力がされている。 実習が開始され、患者と実際に関われることへの喜びや責任を感じている学生が多かった様子がわかる。ヒヤリハットの件数が多いようにも感じるが、これは、学内実習から病棟実習に移行してきているためとも考えられる。具体的にその後の振り返りができているようなので、今後も情報管理等指導をしながら、事故のないように取り組んでほしい。そのため、評価は 3.6 で妥当と考える。
Ⅳ学生募集と受け入れ	3.5	大学への進学希望者の増加や、18 歳人口の減少などにより、学生の定員数の確保が困難となるなか、県内まで推薦枠を広げるなど人員確保の努力が見られる。また、入試科目の検討や入試日程を 2 日間から 1 日間に変更していく計画など、応募人数を増やす努力をしている。どんな学生をターゲットとするか、学院の強みである入学金や授業料の安さを前面に出し、今後も定員数の確保のため努力を継続してほしい。 数字で見ると退学者の人数が増えているようにも見て取れるが、その前から休学をしたり復学をしたりを繰り返し、結果として今年度退学をしたという形であるた

		め、一概に今年度の退学者が多くなったとは言えないことがわかった。学生時代に看護師としての適性があるのかを見極めたり、他の道へのキャリア支援を行ったりしていただけるとよいのでは。 コロナ禍を経て、実習に行けなかったため退学者が多いのかとも思ったが、実習に行けなかったことと退学者の増加との因果関係ははっきりしない。ただ、今後も学生の傾向としては、同じようなことが繰り返されることが予測されるため、やはり学生時代にある程度振り分けをしていただけるとよいのではないか。 学院と病院とで情報共有をしながら協力していけたらよいので、点数は 3.5 そのままとする。
Ⅴ　卒業・就職	3.7	昨年度の国家試験合格率は 98.5%であり、プロジェクトチームを作り対応している結果である。また、市内就職率も高く、評価は 3.7 で妥当であると考える。
Ⅵ　学生生活への支援	3.8	朝起きられず遅刻する学生や欠席が多い学生に対し、教員が指導することなのかという疑問を持ちつつも、現場で働くときに直結する問題なので、低学年のうちから指導をお願いしたい。自己管理、時間管理について、社会人として通用するよう引き続き指導をお願いしたい。また、中途退学者に対しては、本人が納得して進路変更できるよう関わっていることがわかり、先生方のご苦労が理解できる。そのため評価は 3.8 で妥当と考える。
Ⅶ　管理運営・財政	3.6	学生の意見箱への意見が今年度は 20 件あり、それについて教務会議で検討し学生に返答していくといった、組織としての取り組みをした点で、昨年よりポイントがあがっているのではないか。
Ⅷ　法令等の遵守	3.8	さいたま市からの職員用のコンプライアンスに関する通知が多かったり、勉強会、研修会に行ったりすることが多かったため、教員の意識づけが高くなったのではないか。3.8 で高めではあるが、このままで妥当と考える。
Ⅸ　施設設備	3.9	スマホ世代の学生は、ワード入力が苦手だったり、患者のカルテをコピーアンドペーストの繰り返しで作成したりと、就職してからパソコンの指導をしなければならない人がいる。 情報処理の講義でパソコンの基本的操作は学んでいるとのことであり、就職してから電子カルテに苦戦して、新人指導に時間を取られることのないよう、学校にいるうちに習得させてほしい。また、今後は、学生には課題をワードで提出させたり、チャット GPT などに対する対策を練ったりしなければいけないだろう。 電子教科書については利点もあるが、すべて電子教科書に入っていて調べやすいため、学生は考える前にすべて調べてしまい、自分で考えることをしなくなってしまう傾向にあるように思う。答え探しをしているだけで、考えるということをしないのは危険であるため、慎重に使用していく必要があるだろう。 3.9 と高めではあるが、ICT 教育ということで取り組んでいる結果であるため、今後も継続してほしい。
Ⅹ　教職員の育成	3.4	昨年が研究などされておらず 3.2 と低めであったが、今年度は授業協力や研究への取り組みということで、3.4 でよいのではないか。
Ⅺ　広報・地域活動	3.5	コロナ前に実施していた外部ボランティアが再開されはじめたら、ぜひ、学生が地域貢献できる機会を増やしていただけたらと思う。

＜総評＞

学院側の自己評価から評価点が変わったところはない。カリキュラムが改訂されて 2 年が経ち、評価のなかで、より良くしていくための先生方の努力がよくわかった。今後も現場と連携して、よりよい教育ができるように学校運営に携わってほしい。